道徳 新教科書の特徴

理論編

敬愛大学教育学部 教授
土田 雄一

1 育てたい子どもの姿

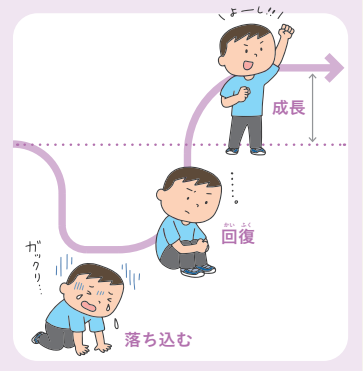
まず、今回の教科書改訂にあたり、光文書院の新しい教科書が目指す子どもの姿について示します。

人間のよさを追い求め、たくましく自分の生き方を考え続ける子ども
- 自分を見つめ、深く考える子
- ものごとを多面的・多角的に考える子
- 自ら問いをもつことができる子
- へこんでも立ち直ることができる子

学習指導要領を踏まえて、これらの姿を実現するための教材や指導方法を考えながら、教科書を作成しました。以下、令和６年度版教科書の特色を解説します。

2 へこんでも立ち直る力の認識

誰でもつまずくことやへこむことがあります。その原因や、へこんでいる期間には個人差があります。しかし、誰もがへこんでも立ち直る力（レジリエンス）をもっているのです。その力を引き出し、高めることが、新教科書のねらいです。発達段階に応じて全学年に「へこんでも立ち直る力」を考えるコラムを掲載し、教材と関連させながら身につくようにしました。



▲新教科書のレジリエンスコラム
5年「立ち直り曲線」

「へこんでも立ち直る力」を考える教材の一つに『四本の木』（５年）があります。大風で折れた一樹を見た三本の木（大樹・優樹・友樹）は、どうしたら折れない木になれるのか考えます。大樹はしっかりと根を張り、幹を太くし、強い木を目指します。優樹はしなやかで柔軟な木を目指します。友樹は仲間と共に森をつくってみんなで支え合います。一方、折れた一樹も新しく芽を出し、新しい成長を始めるというお話です。

ストーリーはわかりやすく、大人でも考えさせられる内容です。大学の講義や教員の研修でも紹介してきましたが、たいへん好評でした。また、交流活動の一環で訪れたフィリピンの子どもたちとの授業でもたいへん有効でした。どの木に共感してもよいですし、四本の木の生き方から自分なりの生き方を考えることができます。

3 ものごとを多面的・多角的に考えるための「思考ツール」の活用

これからの子どもたちには「ものごとを多面的・多角的に考える力」が必要です。そこで、新教科書ではオリエンテーション「いろいろなやり方で考えてみよう」を充実させ、「思考ツール」の活用について触れています。「クラゲチャート」「ウェビング」「Ｙチャート」「フィッシュボーン」などの考えるツールは、ねらいを達成したり、自分の生き方を考えたりするためのものです。思考ツールを活用しながらさまざまな視点でものごとを見つめ直すことは、自分のよりよい生き方を考えることにつながります。実生活で問題に直面したときや選択に悩んだときに、思考ツールを活用しながら、自分で判断し、行動することができるようになることを目指しています。

4 現代的課題への対応
～情報モラル・いじめ・人権・ジェンダー・環境・SDGs～

現代的な課題にも対応できるように改訂しました。情報モラルとして、特に「GIGAスクール構想」による一人一台端末の普及について、その光と影の部分を道徳でも扱っていきたいと考え、全学年で系統的に関連する教材と「コラム」を位置づけています。その他、いじめの問題、人権・ジェンダーに関する問題、環境に関する問題、SDGsに関連する問題なども取り上げています。

道徳授業を基盤として、一人ひとりの子どもたちがたくましく、自分のよりよい生き方を考え続ける姿勢を身につけてほしいと願っています。